

私の教育では漢字を用ひて幼児に言葉の教育をほどこしてゐるのですが、ではなぜ漢字を用ひるのかを説明させう。

漢字は言ってみれば「視覚的な言葉」です。一方、話される言葉は「聴覚的な言葉」です。話された言葉は、その場で消えてしまひます。幼児は大人に比較すれば機械的記憶は抜群にすぐれてゐますが、それでも、その場で消えてしまふ言葉を覚えるには、その言葉を何回も何十回も繰り返して聞く必要があります。ところが、漢字を見せると数回で覚えてしまひます。たった一回で覚えてしまふことも稀まれではありません。

人間が五官(目・耳・鼻・舌・皮膚)から吸収する知識のうち、最も多く吸収するのは目からです。実験によると、全知識の 83 パーセントが目から入ったもので、耳が 11 パーセント、残りの 6 パーセントがその他となつてゐます。目から吸収する知識が全体の八割以上を占めてゐるので、いかに目が大切かが解わかります。

「視覚的な言葉」の大切さはもう解つていただけたと思ひます。それでは次に、なぜ漢字を使ふのか、といふ点について説明します。

なぜアルファベットではいけないのか？

なぜひらがなやカタカナ、あるひは数字では駄目だめなのか？

他にも適当なものがあるのではなからうか？

あるかもしれません。また、アルファベットや数字も決して駄目だといふのではありません。ただひらがなやカタカナでは少しまづい点があるのです。その理由はかういふことです。

ひらがなやカタカナは、字形がいかに簡単なことから、理解しやすく覚えやすい文字だと思ひがちです。ところが実際に幼児に覚えさせようとすると、これが決して覚えやすすくないことが解わかります。そこで、散々さんざん苦労して、ひらがなやカタカナを覚えさせようとして失敗したお母さんを始めとする大人たちは、文字を教へるのは、この子にはまだ早過ぎるのだと思ひ込んでしまひます。これがまづい点なのです。

ためために「鳩はと」といふ漢字を子供に見せてみて下さい。「は」や「と」といふひらがなが覚えられなかった子供でも、「鳩」といふ漢字は覚えられます。これは私が長年子供たちに試してみ、一人の例外も無かつたのですから確かなことです。信じられないといふ方は是非試してみ、せひ下さい。

この意外な事実は、多分二つのことから説明がつくと思はれます。一

つは、「鳩」といふ存在は具体的で、しかもよく子供たちが知ってあるものであること。これに比べて、「は」とか「と」といふひらがなは抽象的で関心がもてなく、また、覚えるにも覚え様がない、と考へられます。もう一つは、複雑なものほど案外覚えやすいといふことです。複雑なものは記憶の手掛りになる点が多いので、覚えやすいのではないでせうか。

人の顔なども、ホクロがあるとか眼鏡をかけてあるといった特徴がいくつかあると覚え易いけれど、平凡な顔立ちといふのは覚えにくいでせう。文字についても同じことが言へるのではないかと思ひます。

理由はともあれ、実際に試してみると、どの子も必ず漢字から先に覚えるといふ事は動かし難い事実です。

また、ひらがなやカタカナから覚えさせてはまづい大きな理由がもう一つあります。それはひらがなやカタカナから先に覚えた子供は、漢字を先に覚えた子供に比べて読書能力が低いといふことです。これは私にもはっきり理由が解らないのですが、多分、漢字を先に覚えた子供は、文章を漢字とひらがなから成り立つ文節に素速く分けて、その上で文章の意味を解釈するからではないかと思はれます。ひらがなから入った子供たちの文章の読み方は、いはゆる「拾ひ読み」といふもの

で、ひらがなを一字一字読んで行き、しかも漢字にぶつかると、読んで意味を理解するのに非常な困難を覚えるやうです。その点漢字から先に覚えた子供たちは、漢字に対する抵抗を全然感じないで済みますので、高度な内容の文章にもへこたれないで読みこなせることになります。これは大変に結構なことです。

ところで、読み取り能力といふことに関して面白い資料があります。皆さんは、アルファベットとひらがなと漢字のうち、どれが最も早く読み取れると思ひですか。やってみれば直に判ると思ひますが、それは漢字なのです。具体的な例をとると、例へば「川崎」といふやうな漢字言葉を読み取るのには何秒かかるかといひますと、精密な測定器を使った結果では何と 0.06 秒です。これが「かわさき」といふかなですと、0.7 秒かかり、「KAWASAKI」といふやうなローマ字になりますと、1.5 秒かかってしまひます。これは勿論私たち日本人の間での調査ですから、アルファベットの読み取りに時間がかかるのは当たり前ですが、漢字とひらがなの間にこれほど歴然とした差があるのは驚くべきことです。私たち日本人が、いかに漢字の恩恵を蒙って来たかは筆舌に尽せないものがあると思ひます。

ひらがなばかりの文章といふのは本当に読みにくいものです。これがカタカナばかりといふことになると、もう読むのを断念したくなる位、読みづらいものだといふ事は皆さんも経験したことがおありではないでせうか。例へば結婚式の披露宴^{ひろうえん}で祝電が読み上げられますが、司会者の方であれをそのまま読み上げる人は少ないと思ひます。皆、一応漢字とひらがなの混った普通の文章に書き直して読み上げるのではないかと恩ひます。

と言って、漢字ばかりの文章といふのも決して読みやすくはありません。漢字だけで成り立ってある中国語の文章は、文法のせゐも手伝つて、非常に読みにくく、また解釈にも苦しむことが多いものです。

その点、私たちのこの日本語の文章といふものは大変読みやすく出来てゐて、大変有難いものだと思ひます。

日本人の文盲率^{もんもウ}がゼロに近いのは、実はこのあたりにあるのではないかと思はれます。あるひは意外に思はれる方もあるかも知れませんが、諸外国の文盲率はかなり高く、先進諸国アメリカやイギリスでさへいまだに文盲の人は少なくありません。最近のイギリスの推理小説の中に、文盲であることの劣等感から殺人を犯してしまった中年女性の話があり

ますが、鬼気迫るその描写の間から、文字を読めないことの惨めさがにじみ出てゐます。

私たちはかうであつてはなりません。幸ひにも日本語には漢字といふものがあつて、大変読みやすく出来てゐますから(ここまで読んで来て、この表現に驚かれる人はもうゐないと思ひますが)、有難い^{ありがた}ことに文盲の人は極めて少ないのです。そして全部の日本人が漢字から学ぶことになれば(私はその日が来てくれることを祈つて居りますが)、文盲率はゼロになり、読書能力は極めて高く、全員が読書の楽しみと実益^{きやうじゆ}を享受することが出来るに違ひないと思つて居ります。

残念ながら、今の日本では、ひらがなから先に学ぶといふ形をとつてゐるために、漢字嫌ひ^{きら}の子供が多く、そのため読書に興味を示さない子供や大人が増えてゐます。しかし最初に上手に漢字を学ばせてやれば、かういふ活字離れ現象は防ぐことが出来るのです。せつかく日本に生まれながら、勿体ない^{もったい}ことだと思ひます。

では、どうしたら上手に漢字を学ばせることが出来るのでせうか。次の章で、それを説明いたします。